

城崎国際アートセンター

アーティスト・イン・レジデンスプログラム決定

城崎国際アートセンター(KIAC)は、年間を通して国内外から演劇やダンス等のアーティストが滞在し、創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンスの施設です。2020年度、KIACで創作活動を行う17組のアーティストが決定しました。世界各国から80件の応募がありました。KIACの活動が国際的にも評価され、認知度が上がっています。

滞り期間中には、公開稽古や、制作途中の作品の試演会、トークショーやワークショップなど、市民との交流プログラムを無料で実施します。さらに、市内の中学生以下向けに、ダンスや音楽等のワークショップを行うなど、子どもたちとも交流します。

交流プログラムの詳細は、広報とよおかや、今後発行するアートセンター通信(黄色い紙が目印)で随時お知らせします。

注目のプログラム!

ダンスと音楽のアーティストによる1対1のガチンコ勝負!

ジャンルを横断したコラボレーションを多数手がける振付家・ダンサーの森下真樹は「ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る」プロジェクトで滞在。MIKKO、森山未来、石川直樹、笠井 叡という異なるバックグラウンドを持つアーティストが各楽章の振付を担当し、2017年に森下のソロとして発表した作品を再創作します。

滞り期間中には、20年がベートーヴェンの生誕250周年となることを記念し「こどもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭・おんぶの祭典」の一環として上演します。

フランツ・リストがピアノソロとして編曲した「運命」をおんぶの祭典の音楽監督でピアニストの碓井俊樹が生演奏

し、ダンスとのコラボレーションに挑みます!

子どもたちに世界の優れた作品を!

「あかちゃんと一緒にせかいをつくる」をテーマに、乳幼児と大人に向けたパフォーマンスを制作するシアターカンパニー「BEBERICA theater company」は、日本、韓国、中国台湾、ベトナムなどから、乳幼児演劇(ベイビシアター)に関わるアーティストや実践者が参加する、アジア圏におけるベイビシアターの交流を目的とした国際ミーティングを実施します。滞り中には本市内の子育てセンターに出掛け、赤ちゃんや親子に成果発表やワークショップを行い、地域と交流します。

地域地域の文化資源を研究し、継承につなげる

日本相撲聞芸術作曲家協議

応募・選考

- 応募件数 80件(23カ国)
- 採択組数 17組
- 【内訳】ダンス4組、演劇5組、音楽1組、その他7組



【左上】日本相撲聞芸術作曲家協議会による竹野浜での創作の様子【左下】BEBERICA theater company公演『What's Heaven Like?』 Photo:江戸川カエル【右下】ベートーヴェン交響曲第5番『運命』全楽章を踊る舞台写真©bozzo

プログラムは変更となる場合があります。

会(JACSHA)は、日本各地に伝わるさまざまな相撲文化を研究し、新たな舞台芸術を創造する「オペラ双葉山」プロジェクトの滞り制作を行います。2018年には、竹野地域の「竹野相撲甚句」や養父市奥米地の「ねっつ相撲」など、但馬地域に残る相撲文化を調査・研究し「竹野相撲甚句ファンファーレ」などの新作楽曲を作曲・発表しました!

2度目の滞りとなる今回は、竹野相撲甚句を知る地域の方々や竹野小学校金管バンドの子どもたちとの交流、大相撲の相撲甚句と竹野相撲甚句との融合を試み、その過程で出会った相撲に関するさまざまなエピソードを盛り込んだ、語りと音楽によるオペラ双葉山「竹野の段」を創作予定です。《問合せ》城崎国際アートセンター ☎32-3388



珍しいお客さん

昨年の今ごろ、1羽のマナヅルが豊岡盆地に飛来しました。繁殖地は、ロシア南東部からモンゴルにかけて広がり、一部コウノトリとも重なります。世界のマナヅルの約半数が出水市(鹿児島県)で越冬し、渡来地は特別天然記念物に指定され保護されています。山陰地方では出雲市(鳥根県)で時々観察される程度。そんな珍しいマナヅルが、豊岡にやってきたのです。

紅一点

今回の飛来個体は亜成鳥と呼ばれる若鳥。コウノトリより一回り大きく、白黒の羽根模様は目の周りの赤色が鮮烈な印象を与えるマナヅルは、遠くからでもひと目で分かります。多くの人が観察に集ま

りましたが、人への警戒心はそれほど強くなく、田んぼで一日中、二番穂や土の中の食物を食べ続けていました。冬期湛水田をめぐらして利用し、日中はコウノトリ、コハクチョウ、マガンなどと一緒にいる場面も。

今年も飛来するか

豊岡盆地にちょうど2カ月間滞在したマナヅル。私が野鳥観察を始めてから30年ほどの間、マナヅルが豊岡で越冬したという記憶はありません。今後、豊岡盆地が越冬地の一つとしてマナヅルに選ばれば、冬の見どころが増え、さらに豊岡がすてきなところになるでしょう。

(写真・文 コウノトリ市民研究所 高橋 信)



▲マナヅル

東京 2020 オリンピック聖火リレー

ボランティアスタッフ募集

56年ぶりの日本開催となる東京2020オリンピック。オリンピックの象徴である聖火リレーが5月24日(日)に本市で実施されます。

聖火リレーを盛り上げ、スポーツの祭典を市全体で歓迎するため、ボランティアスタッフを募集します。

募集概要

▼日時 5月24日(日)午前中

▼内容

▽聖火ランナーの走る沿道やスタート・ゴール地点会場での走路確保、観覧者整理など

▽コース沿道周辺の準備や片付け

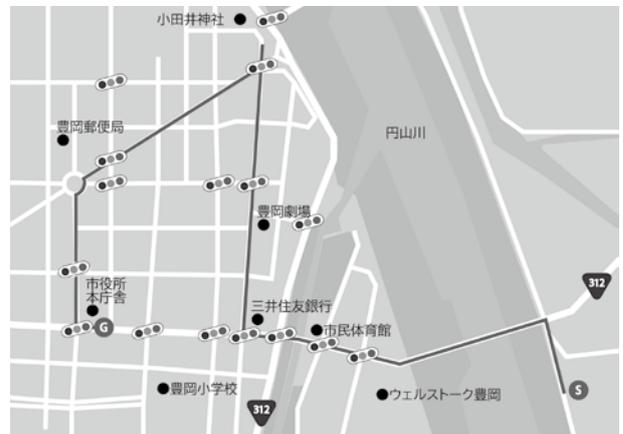
※車両の交通規制は警察と警備会社で対応します。

※ボランティアスタッフはランナー走路と観覧者の間に等間隔に並んで走路確保する予定です。

▼対象 高校生以上で市内在住、在勤、または在学の方(未成年者の参加には保護者の同意が必要です。)

▼定員 先着200人程度

▼申込み 1月29日(水)～3月4日(水)に、申込用紙(市ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入し、メール、ファクス、郵送、または持参



▲聖火リレールート

※詳細は市ホームページの募集要項をご覧ください。

▼その他

▽活動内容、時間、場所は後日連絡します。

▽現地集合・現地解散で、報酬・交通費・駐車場の用意はありません。活動場所への交通手段の確保、ルートの確認は各自で行ってください。

▽ボランティア活動向けの保険は事務局で加入します。

《申込み・問合せ》スポーツ振興課内「東京2020オリンピック聖火リレー豊岡市実行委員会事務局」(〒668-8666、中央町2番4号) ☎21-9023 FAX29-0054 メールsports@city.toyooka.lg.jp